

組織現勢 (12月1日現在)

組合員数 21,999 世帯
出資口数 91,814 口
11月の新規加入 105 世帯
11月の増資口数 317 口

No. 346 再生紙を使用しています。

城南の保健

発行所
城南保健生活協同組合
本部事務局 大田区大森東4-6-15-101
TEL (3762) 0266
振込銀行 さわやか信用金庫大森支店
口座 (普) 0469459
発行 「城南の保健」編集委員会
毎月1回発行・定価1部 30円

城南保健生活協同組合 理事長 小関直彦



昨年は、3月11日に東日本大震災が発生し、福島第一原発から放射能が流出する大事故が起きてしまいました。世界の人びとが日本は広島・長崎に続いて福島で原子力の被害を受けて大変だという同情もあれば、チェルノブイリの再現だとの声もあります。事故を起こした東電をはじめとした電力会社と政府が

一体となって「原子力発電は安全」という神話をつくり出した責任は重大です。
こうした中で、私たち城南保健生協は地震発生直後より、大田病院などと連携して支援チームをつくり支援活動に参加しました。また、必要な物資や義援金を送るなど、支援の輪を広げるための行動もしてきたところです。

6月の総代会のスローガンも「福祉・防災都市東京をめざし、住み続けられるまちづくりと仲間づくりで、いっそう頼りになる保健生協を」と、防災都市づくりを課題に加えました。この目標達成のために、昨年の10月から生協の仲間増やし月間を設定し、組員拡大の運動をすすめています。目標達成のために、もう一息のがんばりが必要ですので、新年早々ではあります。みなさんのご協力をお願いいたします。

私たち城南保健生協は、大森中診療所の1階で、毎週月曜日から金曜日の午前中「無料よろずなんでも相談」を開いています。先日も組員の紹介で、夫が脳梗塞で倒れ入院していたが、後はリハビリで治すように

あけまして おめでとうございます

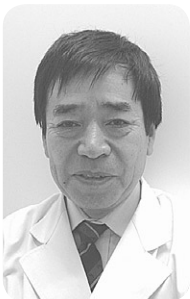


昨年の第1回駅伝フェスティバルより

2012 年



城南福祉医療協会 理事長 権守光夫



「今年こそ何か気味よき事せむと今年も誓へり元日の朝」：没後100年を迎える、石川啄木の101年前の歌です。

昨年は、3月11日(私の64歳の誕生日)の東日本大震災・福島第一原発事故という未曾有の出来事があり、しかも放射能汚染の問題は、未だに進行形で未解決です。

秋には、6万人参加の「9・19『さよなら原発大集会』」や、全国から800人の医師が参加した震災復興・医療再生を願う11・20「ドクターズウォーク」、

東京保険医協会の3回シリーズの原発問題講演会や、さいたま市での「第22回全国反核医師の会」、吉井英勝著『原発抜き・地域再生の温暖化対策へ』や高木仁三郎著の岩波新書を読み、4月から理事になった住原医師会では、第15回公開区民講座「知っておく役に立つ放射線被曝の知識」を企画し、私自身は原発を願うようになった1年でした。

城南福祉医療協会としては、4月に大田病院のアンネックス棟が完成し、透析や医局が入り、病院の新築が完了しました。建設期間中の109床が、今は回復期リハビリ50床を含む189床になり、今年度は過去最高の59億円の医療活動を行っていま

す。大田病院の「東京ルール」第2次救急の幹事病院機能も維持し、大森中診療所と大田歯科も、お金が不如意の時でもかかる「無料低額診療」の認定医療機関になりました。
さて今年、新しい次の中期計画を策定します。その検討委員会も3月の提案に向け活動中です。地域の医療要求に総合的に応えることを基本に、施設的には、都の防災上の必要性・緊急性から、ゆたか診療所の近接地移転が当面の課題です。4月には、京浜診療所の40周年祝賀会も予定されています。

啄木は、当時は不治の病であつた結核で27歳で4月13日に亡くなりましたが、100年前の元日の歌は：「今も猶やまひ癒えずと告げてやる文さへ書かず深きかなしみに」

城南医薬保健協働代表取締役 神岡 勤



昨年は私たちにとって忘れることのできない年となりました。3月に起きた東日本大震災は1000年に一度の大震災と報道されましたが、津波の規模は地質調査の結果、約1150年前に仙台平野を襲った貞観の大津波よりも大きかったことがわかりました。また福島第一原発の放射能漏れ事故は、建設が当初計画にあった高台から低地へ変更されており、東電の安全よりも費用削減を優先したことによる人災であることが明らかになりました。

放射能汚染は、1940年代

の原爆の開発、大気圏での核実験、スリームイル島原発事故、チェルノブイリ原発事故、湾岸戦争・イラク戦争・コソボ紛争などでの劣化ウラン弾の大量使用など世界規模で広がっています。しかし、放射能汚染による影響は、今まであまり報道されてきませんでした。今も真実がどこまで報道されているのかわかりません。

各地で「自分たちのことは自分たちで守るしかない」との機運の表れとして、放射線測定がとりくまれています。城南3法人も放射能の人体への影響の学習会を行い、線量計を購入し地域の測定をはじめました。

放射能測定をすすめるながら、一方で知識を深め、いかにすれば食品中の放射能を下げるこ

とができるのかを探索する必要があります。例えば茶葉では茶畑の土壌中のセシウム137が少なく、空気中の低い線量にも関わらず、なぜ新茶に基準値を上回る数値が検出されたのかについて究明されています。また野菜の中でも根菜類は、直接土壌から水分・養分を吸収しますので放射性物質を吸収しやすいと思われますが、種類の違いにより差があることがわかっています。セシウム137は、現段階では水溶性のため、茹でるとかなりの部分が煮汁に出てくることもわかっています。
放射性物質の半減期を考えると、これからずっと放射能汚染と付き合っていくなくてはなりません。このように私たち皆で正しい情報を集め、生活に役立てながら、食の安全と一緒に考えていけたらと思います。